

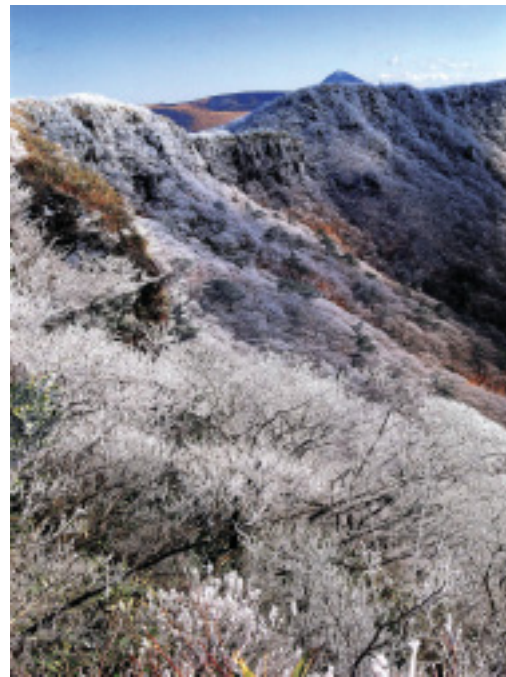
2007年 **12月1日(土)** ▶ **12月24日(月)** 開館時間 9:00~17:00 (入館は16:30まで)
休館日:火曜日
主催:宮崎県総合博物館・日本自然科学写真協会

**観覧
無料**

12月1日から12月24日にかけて開催する「日本自然科学写真協会写真展」～第28回SSP展 自然の中の不思議を知る2007～は、宮崎では4回目の開催となります。今回は宮崎県ゆかりの写真家である東木場昭裕氏、田中利文氏の作品をはじめとする123点の作品を展示します。作品はどれも、被写体を巧みな技術で撮影したもので、私たちを引きつける魅力ある作品ばかりです。

日本自然科学写真協会 (Society of Scientific Photography 略称SSP) は、「自然科学の目で、写真を介して情報交流の場を設け、写真文化の向上と発展を願う」ことを目的としてつくられた写真文化団体で、今年で創立30周年を迎えました。

会員には昨年日本人初のレナート・ニルソン賞を受賞された栗林 慧氏をはじめ著名なプロ写真家やアマチュア写真家、また自然科学及び写真関係にたずさわる研究者の方々などで構成されています。SSPによる写真展は、1979 (昭和54) 年から始まり、本年度は東京、大阪、福岡、京都、岐阜、愛媛、岡山、そして宮崎で開催されます。この機会に素晴らしい作品の数々をご堪能ください。



霧島(大浪ヶ池)樹氷 東木場昭裕(宮崎)



闇を飛ぶ 栗林 慧(長崎)

お知らせ

休館日のお知らせ

年度内の休館日は、年末・年始の12/28(金)～1/4(金)、3/21(金)、そして毎週火曜日です。

常設展は無料です

常設展示室は、平成17年度4月より無料となっております。いつでもご来観ください。なお、開館時間は午前9時より午後5時までで、入館は午後4時半までです。

博物館講座「古文書と歴史 第3回(近代編)」

福島家文書などを使って、「橋橋架橋からみる近代の宮崎」(仮題)というテーマで近代宮崎県の歴史を学びます。

日時:平成20年2月23日(土) 午前10時30分～12時
申込期間:1/23(水)～2/9(土)

対象:中学・高校・大学生・一般

場所:宮崎県総合博物館2階 研修室1

定員:30名 ※定員を超えた場合は、抽選となります。

参加料:無料

森の通信

自然と歴史の大発見
宮崎県総合博物館
Miyazaki Prefectural Museum of Nature and History
発行日/平成19年11月15日

発行/宮崎県総合博物館 〒880-0053 宮崎市神宮2丁目4番4号 TEL(0985)24-2071
http://www.miyazaki-archive.jp/museum/ E-mail:hakubutsukan@pref.miyazaki.lg.jp FAX(0985)24-2199

やってきた、きた、きた 県北調査展

■会期 **2008年2月9日(土) ⇒ 3月16日(日)**

■会場 **宮崎県総合博物館【2階特別展示室】**

午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

観覧:無料

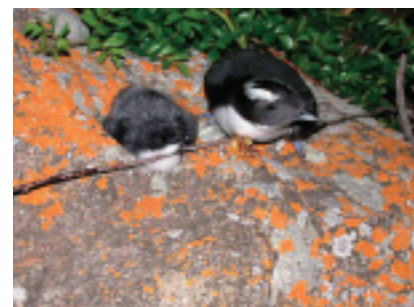
宮崎県内では、近年の開発や社会生活の変化により、自然をもとに営まれてきた昔ながらの生活習慣が失われてきています。そんな中で、自然の面では県内の多くの場所で学術的な調査がなされておらず、貴重な生物資料の存在が記録できていない状況があります。また、歴史についても伝統的な生活習慣や風習、遺跡や史資料等が消えつつある状況にあります。

そこで、博物館では、県内を県北・県央・県南・県西の4つのゾーンに分け、各部門ごとに地域内での研究テーマを設定し、館外の専門家の協力を得ながら調査し、その結果を資料として後世に留めることを主な目的として地域別総合調査を行っています。今回の展示会は、平成15年度から平成18年度にかけて調査した県北地域の動物・植物・地質・考古・歴史・民俗に関する資料や情報を展示・紹介します。

自然史分野では、昨年、五ヶ瀬町で採集された県内最大のアンモナイト化石を実物資料として展示したり、門川町沖の枇榔島に生息するカムリウミスズメをはじめとする鳥類の調査報告などを行います。歴史分野では本館で初めて所蔵することになった西郷隆盛の直筆書状や日之影町の宮水人形浄瑠璃で使われる文楽人形などの実物資料が展示されます。県北地域はもとより、県内外のみなさんのお越しをお待ちしております。



巨大アンモナイト



カムリウミスズメ (写真提供 中村豊)



厚歯二枚貝メガロドンの密集化石



西郷隆盛の書状

宮崎の歴史情報

こんなところにも古墳が…

◆考古部門◆

案外、意外なところに重要な遺跡があるものです。

みなさんは宮崎市の平和台公園中に立つ「平和の塔」の後ろに、重要な古墳があるのをご存じですか？ 県史跡に指定されている下北方1号墳（指定13号）です。全長113mと大きな前方後円墳で、丘陵の尾根を削って造られています。1951（昭和26）年に発掘調査が行われ、県内では珍しい動物埴輪の足や人物埴輪の手の一部などが発見されました。一緒に発見された円筒埴輪から6世紀初め頃古墳と考えられています。丘陵下に広がる下北方台地にも前方後円墳や円墳が造られており、あわせて南九州独特の地下式横穴墓も分布しています。宮崎平野の古墳時代を語る上で重要な古墳群のひとつと言えます。考古の常設展示室には動物埴輪の足と人物埴輪の手が展示されています。（永友）



新収蔵資料紹介

「ササユリのレプリカ」

◆植物部門◆

植物部門が収集する資料は大きく二つに分かれます。一つは実物標本です。実物標本は宮崎に自生する植物の戸籍簿作りの証拠標本ですからとても重要な資料です。でも展示会における展示資料としてはちょっと役不足です。それを克服する資料がレプリカです。レプリカは単なる模型とは異なり、姿・大きさ・色を忠実に再現しています。高価なためたくさんは作成（購入）できませんが、18年度は2点作成しました。1点はウバユリで、もう1点はササユリです。ササユリは県北の海岸や高山に生える大変きれいな植物です。来る2月9日から開催される「やってきた、きた 県北調査展」で初公開の予定です。展示会は無料ですので、ぜひササユリも見にお出でください。（齋藤）



博物館講座紹介

「組ひも製作体験講座」

◆民俗部門◆



この講座は、8月25日（土）に研修室1で実施しました。参加者は宮崎海洋高等学校の上杉伸一郎先生と3名の海洋高校の生徒さんの指導のもとで、それぞれが持参した瓶に組ひもを製作していきました。組ひもの技術は、漁具の網や仕掛けをつくる技術など海に暮らす人々の間で培われた技術で、漁業関係者以外にはなかなか知られていません。こうした技術を一般の方に体験してもらうことを目的に、この講座を今年度開催しました。両手に加え足の指を使っただけの作業なので、うまくできずなかなか難しそうでしたが、完成すると皆さんが満足された様子で帰られたことが印象に残りました。（小山）

うまくできずなかなか難しそうでしたが、完成すると皆さんが満足された様子で帰られたことが印象に残りました。（小山）

博物館への問い合わせより

「この石の名前は何？」



採取した岩石や鉱物は美しい色や形を鑑賞するだけでなく、その名前が知りたくなります。岩石は含まれる元素によって微妙に色合いを変えたり、風化によっても硬さや色を変化させます。同じ名前の岩石でも見た目が大きく変わってしまうため、生物のように図鑑の写真などと比較して名前を付けることが困難です。石を見分けるためには実物サンプルとの比較が効果的です。博物館の常設展示室には県内で産出する主要な岩石、みんなの情報室には県内の川原や海岸の石、鉱物などの標本が揃っています。わからない岩石を持って来て比較してみてください。それでもわからないときは学芸員にご相談ください。その際、岩石の採取場所がわかっていると正しい名前を知ることができます。（赤崎）

常設展示室紹介

～土の中の動物たち～

◆動物部門◆

このコーナーは土の中の小動物たちにスポットを当てています。土の中の小動物は落ち葉や動物の食べ残し・遺がいなどをエサとしており、そのフンは菌類・細菌類により無機物に分解されます。

このコーナーでは、形や色を忠実に再現したオオコケカニムシ（20倍；写真）などを展示しています。これらは、土の中の食物連鎖において、消費者となり、大きな有機物を細かくする役割をになっています。

顕微鏡では実物の小動物が観察できます。プレパラートを回してレンズをのぞいてみてください。また、標本箱には肉眼で観察できる小動物を展示しています。その中のオオセンチコガネはファーブル昆虫記や古代エジプトの再生・復活の象徴として崇拝された「フンコロガシ（スカラベ）」（写真）です。（串間）



オオコケカニムシ



フンコロガシ

解説員の声

Voice



クロガネモチ

博物館正面の中庭にクロガネモチの木が、2本形よくそびえ立っています。森の中で育つ場合と違い、自由にのびのびと育っているからです。クロガネモチは雌雄異株で、雌の木だけに実が成ります。ここのクロガネモチは2本とも雌の木ですので、毎年たくさんの果実をつけます。秋になると、実が真っ赤に熟れ、ヒヨドリが果実のご馳走を楽しそうに食べ始めます。クロガネモチの恩恵にあずかっているのは鳥だけではなく、館内の見学に訪れる子供たちもお昼になると、木陰を利用したりして、楽しそうにお弁当を食べています。子供たちの笑い声、鳥のお喋り、博物館の外も賑やかです。これからの季節、お散歩を兼ねて博物館周辺の樹木や小鳥もお楽しみ下さい。（平井）